



旧大浜警察署



碧南市・碧南市教育委員会

旧大浜警察署とは

旧大浜警察署とは、大正13年（1924）から昭和23年（1948）まで当時の大浜町・新川町・棚尾町・高浜町・旭村・明治村の6町村を管轄していた大浜警察署の建物をいいます。

この建物はもと安城警察署大浜分署の木造庁舎老朽化に伴い鉄筋コンクリート造で建て替えられたものです。警察の機構が変わり愛知県碧南警察署が発足してからも昭和36年（1961）まで37年間西三河南部の安全と治安を守ってきました。



旧大浜警察署の変遷

明治20年（1887）7月11日

当地に知立警察署大浜分署を
新築移転

明治44年（1911）4月16日
大正13年（1924）3月30日

安城警察署大浜分署と改称
庁舎建替え竣工

大正13年（1924）8月7日
昭和23年（1948）3月7日

（鉄筋コンクリート造の旧本館部分）

昭和23年（1948）4月5日
昭和29年（1954）7月1日
昭和36年（1961）7月20日

大浜警察署として独立・改称
新川・大浜・棚尾3町により、
碧南組合警察署が発足し改称

昭和48年（1973）3月20日
昭和49年（1974）10月1日
昭和57年（1982）4月1日～
平成元年（1989）3月9日
平成21年（2009）3月28日

碧南市警察署と改称
愛知県碧南警察署発足し改称
碧南警察署、碧南市字野田111番地に
新築移転

愛知県知立土木碧南出張所
大浜公民館

大浜下区民館
外観整備工事完成



旧大浜警察署の特徴

～セセッション様式～

様式は、当時流行していたセセッション様式を部分的に取り入れたものです。

セセッション様式とは、大正時代に日本で流行した直線的な幾何学模様などを取り入れた建築様式のことです。



鉄筋コンクリート造の理由

この建物が大正13年(1924)に鉄筋コンクリート造で建てられたのは、当時警察署の新改築にあたってこの方法が積極的に採用されるようになっていたからです。

それは、大正7年(1918)の米騒動や大正12年(1923)の関東大震災を契機に治安を守る警察署の建物は安全でなければならない、という考え方方が広まっていたことが背景にありました。

バロメートル

敷地の北西部に「バロメートル」(気圧計)を埋め込んだ石があります。これは漁に出る船のために利用されたといわれています。
現在でも実際に気圧を示しています。





建物概要

所 在 地／碧南市錦町一丁目7番地
延床面積／290.23m²
階 数／RC造2階建、一部3階建



碧南市・碧南市教育委員会

